

2017年5月14日

150、「梅わかな・・・」・・・芭蕉翁

・ 建立：文化5年（1814）10月 竹屋社中・雪中庵完来書

・ 場所：静岡市駿河区丸子7丁目10-10 丁字屋 玄関前

【JR静岡駅北口下車 バスターミナル7番乗り場 藤枝行き丸子橋入口下車 歩約2分】

（この句碑は全国で静岡県に2箇所にあります）



（句 碑） 梅若菜（うめわか）

丸子（まりこ）の宿の

とろろ汁

〔考〕元禄4年春の作。季語は梅。若菜（新年）もとろろ汁（秋）も季語であるが、この句では梅を主たる季語と見るのが適当である。

〔解説〕乙州は天津の人。養母智月尼と共に芭蕉の門人である。実父は伝馬役であった。まりこの宿は、駿河国安部群にあった。東海道53次の1宿場。とろろ汁が名物である。一句の意は「いよいよこれから東海道の旅に出られるのだが、時は丁度春の頃で道中には梅も咲いているし、若菜も美しい、また鞠子の宿では、名物のとろろ汁もおいしいことであろう。どうか楽しく無事に旅をしていってほしいものだ、」というのである。

梅や若菜は、和歌連歌に多くよまれて新味に乏しいが、とろろ汁と全くかけはなれたいわば俗なものをもって来たのが面白い。ことに梅でも若菜でも目に見える美しさだが、それを急に味覚の世界にもって来たのはたしかに新鮮味があり、また俳諧味でもある。



丸子宿



丁字屋



十辺舎一九句碑

〔補足説明〕丁字屋は歌川広重「東海道53次」の画題にもなった老舗〔HPより引用〕のれんをくぐるとそこに広がるのは江戸時代を彷彿させる空間、当時の旅人に思いをめぐらせながらどこか懐かしい味わいのある「とろろ汁」を堪能しよう。

丁字屋さんの自然薯は農家さんの畑で手塩にかけて作られた100%静岡産です。